

学習プログラム開発の基礎

ねらい：学習プログラム開発の基礎知識と作成する際のポイントを理解する。

広島県立生涯学習センター(生涯学習推進マネージャー)
広島経済大学 経済学部 (准教授)
志々田 まなみ
mn-shishi@hue.ac.jp

志々田まなみ (Manami SHISHIDA)

- ・広島経済大学経済学部・准教授
- ・広島県立生涯学習センター生涯学習推進マネージャー
- ・東広島市社会教育委員
- ・竹原市公民館運営審議会委員
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 社会教育指導者に関する調査研究委員会委員
- ・日本生涯教育学会評議員

専門分野

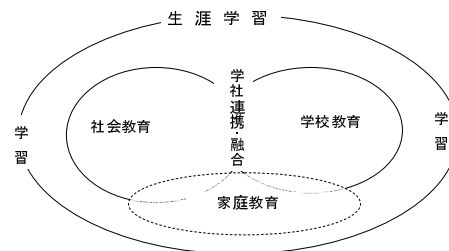
- ・社会教育学・生涯学習論
- ・学校・家庭・地域の連携協力による地域教育力の推進、学校改善活動が近年の研究テーマ

自己紹介

本時の目標

- ・学習プログラム開発に必要な基礎知識(基礎用語)を理解する。
- ・学習プログラムを開発する手順と、作成の際のポイントを理解する。

生涯学習と社会教育との概念的関係 —生涯学習振興に寄与する社会教育—



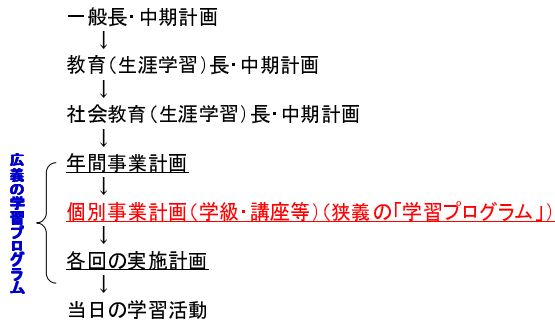
学習プログラム(個別事業計画)とは

集合的な学習機会(学級・講座、行事、集会等)において、人々の学習を具体的な活動レベルで、どんな目標のもとに、どういう活動を、どんな順序で行い、どんな学習成果を生み出す(学習者の態度変容をもたらす)か、という一連のプロセスに関連する学習活動計画をまとめたもの。

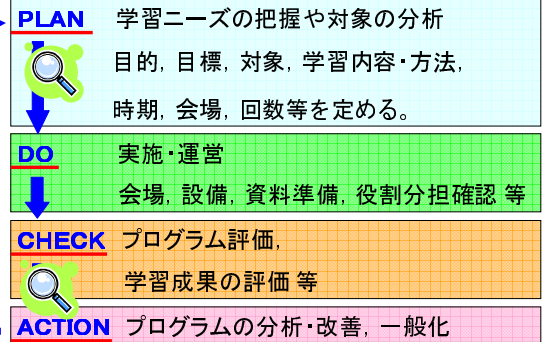
学習プログラムの構成要素

- どのようなことを目的とし
- どのような目標をもって
- どのような活動を
- どのような順序で行い
- どのような学習成果を生み出すか=評価
(学習者の意識や態度、行動の変容をもたらすか)

社会教育にかかる計画の構造



学習プログラム企画・立案の過程



学習プログラム開発者の主な役割

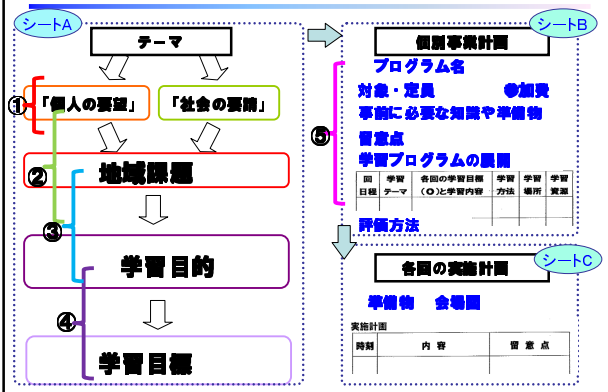
- 診断的機能
- 組織的機能
- 運営的機能
- 計画的機能
- 評価的機能

テーマについて

- この研修では、学習プログラムの作成手順を学ぶために、グループで1つ学習プログラムを作成していきます。
- 青少年教育、高齢者教育、家庭教育支援の3つからテーマをグループごとに選んでもらいます。
- 発表の都合上、1つのテーマについて2グループまでと制限させていただきます。

グループで話し合い、第一希望から第三希望まで順位つけてください

学習プログラム開発の進め方 (PLAN)



グループワーク① 「個人の要望」と「地域の要請」を診断する (学習ニーズ診断)

- 地域に必要なプログラムとは？
- 地域課題を解決・改善するプログラムとは？
- たくさん人が集まるプログラムとは？
- お金がかからずできるプログラムとは？

地域課題をとらえるために

- 個人の要望(要求課題)と社会の要請(必要課題)を把握する。



* ニーズに関するアンケート調査の長所・短所

長) 説得力・根拠のある数値的な資料 資料3~6参照

短) 手間・時間・コストがかかる割には、全国調査の動向とそれほど変わらない

: 知らないことに対するニーズは生まれない

: 「ないよりはあった方がいい…」がみんなの本音

①「個人の要望」と「社会の要請」

シートA

できるだけたくさんあげていきましょう!

「個人の要望」

住民の学習ニーズ

【調べる方法】

住民調査(アンケート)、
日常的な住民との交流

資料3~6と、皆さんの日頃の経験を活かしながら、テーマに関連する課題・要望をあげていく。

「社会の要請」

行政・振興区の重点課題・
施策の方向、地域の課題

【調べる方法】

行政資料(総合計画、
基本計画)、
広報資料、統計資料、

資料1・2を使用して、テーマに関連する課題・政策方針をあげていく。

グループワーク②
「個人の要望」と「地域の要請」から
地域課題を設定する

②地域課題の設定



「個人の要望」と「社会の要請」



地域課題

地域で解決しなければならない課題

地域住民の求めに応じていくべき課題

②地域課題の設定



個人の要望

: ゴミに関するトラブルが地域満足度を下げる最大要因であり、自分の地域でもよく起こっている。

地域の要請

: 市民協働のまちづくりをすすめたい

2つをバランスよく組み合わせて、地域課題を1つ設定する

地域課題

【例】住民がゴミ問題などの地域のトラブルの解決に向け、自主的に取り組んでいけるような機会をつくりだしていくことが必要。

グループワーク③

地域課題から学習目的を
設定する

③学習目的の設定



地域課題

地域で解決しなければならない課題、地域住民に提供しなければならない



住民自らが、学びを通して地域の問題・課題を解決していけるようになるために「学習」の場を作っていく。

学習目的

- 「地域課題」を解決するために、何・どのような学習・方法で学習を進めていくのか。

③学習目的の設定



地域課題

住民がゴミ問題などの地域のトラブルの解決に向け、自主的に取り組んでいけるような機会をつくりだしていくことが必要。

学習目的

性別のよいゴミ処理場を新しく建設し、ゴミ問題を解決しよう。
↑
「社会教育」では解決できない？

【例】

身近な問題について話し合えるような、住民ネットワークを形成する気運を高める。

③学習目的の設定

(地域課題解決の方向性を示す)

どのような課題を、どのような状態にするのか？

地域課題を

こうなってほしいという理想的な状態を考えてみる。

(学習目的の例文)

▲▲(地域課題)を●●●(意図)ようにする。

※「●●●にする」の部分は、理念的なものでもよい。

- ・豊かな心を育てる。・道徳心を養う。・仲間意識を育てる。
- ・人材を育成する。・ネットワークを形成する。・地域の活性化を図る。

グループワーク④

学習目的から学習目標を設定する

④学習目標の設定

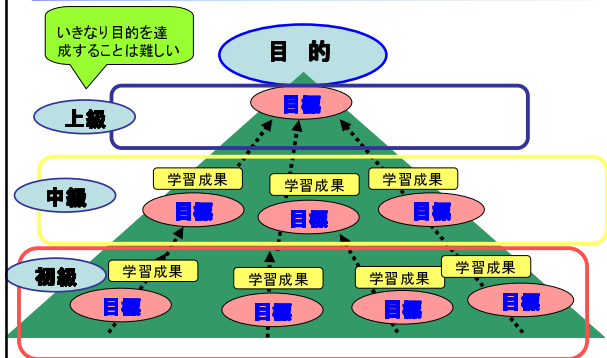
学習目的



学習目標

- 学習によって、地域住民にどんな力・意識・態度を身につけてほしいのか。

目的と目標の関係



④学習目標の設定



学習目的

身近な問題について話し合えるような、住民ネットワークを形成する気運を高める。



学習目標

④学習目標の設定

どのような活動によって、学習者がどのような知識や技能を身につけてもらいたいのか、あるいは、どのような意識を向上したり、価値感を養ってもらいたいと考えているか？

- ①知らないことを知るようになるもの
- ②技能、実技を伴うもの
- ③意識を変えるもの

・主語は必ず学習者

・目標は必ずそのプログラム内で達成できるもの

・達成したかどうかを確認できるもの

学習目標 ①知らないことを知るようになるもの
→知識・理解・判断

(例文)

・ゴミのリサイクルについて学ぶことにより、適切なゴミの分別作業をすることの重要性を理解する。

・不適切なゴミ投棄による被害を知ること、ゴミ収集所付近の住民が困っていることを理解する。

・・・を学ぶことによって、〇〇〇について判断できるようになる。

学習目標 ②技能、実技をとともうのもの
→技能・表現

(例文)

・お互いに気持ちがよくなるコミュニケーション技術を身につけることにより、地域住民同士が率直な意見交換をすることができるようになる。

・パソコン教室でインターネット掲示板の利用方法を学び、ゴミの収集方法が理解しやすいインターネット掲示板を立ち上げ、運営できるようになる。

・・・を体験することにより、〇〇〇について表現できるようになる。

学習目標 ③意識を変えるもの
→関心・意欲・態度

(例文)

・気軽に集まれる地域サロンを企画・運営する活動を通じ、地域交流の楽しさを実感する。

・子どもたちとともに楽しく町内の清掃活動をおこなうことにより、ゴミ問題や環境保全の意識・意欲を高める。

・・・に参加することによって、〇〇〇への考え方(意識)を広げる。

④学習目標の設定

どのような活動によって、学習者がどのような知識や技能を身につけてもらいたいのか、あるいは、どのような意識を向上したり、価値感を養ってもらいたいと考えているか？

- ①知らないことを知るようになるもの
- ②技能、実技を伴うもの
- ③意識を変えるもの

②・③を必ず

1つ入れ

2つ以上設定

*生涯学習・社会教育の場合は、②・③が重要

・主語は必ず学習者

・目標は必ずそのプログラム内で達成できるもの

・達成したかどうかを確認できるもの

シートB

1 学習目的

どのように地域課題を解決し、どのような状態にしたいのかを文章化する。(シートAから転記)

2 学習目標

学習課題を学習目標として文章化する。
 ①学習活動の指針となる目標が設定されているか。
 ②学習者に求める知識・意識・態度が目標として示されているか。
 ③具体的でわかりやすい言葉で示されているか。(シートAから転載)

4 プログラム名

魅力的で夢があるもの
 ・学習目標が伝わるもの
 ・ユニークで、短く、人の心をキャッチするもの

5 対象・定員

目的や目標に合わせて絞り込む。

6 参加費

施設使用料、食費、材料費、保険料計〇〇〇円(申込時払い)など、内訳や集金日時をはっきりさせる。

7 事前に必要な知識や準備物

いざというときの医療機関の情報収集、しおりやアンケートの作成、必要物品の手配

8 留意点

安全面の配慮、プログラムを通しての配慮(子ども、高齢者ならではの配慮も必要)

9 プログラムの展開

個別事業計画についての説明

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容	学習支援者	学習場所
第1回〇月〇日 10:00~16:00				

◎参加者が…によって、〇〇になる。
 【講義】
 ①…を知る。(〇〇分)
 ②…を聞く。(〇〇分)
 【ワークショップ】
 ③…を話し合う。(〇〇分)
 ④…を計画する。(〇〇分)
 ⑤アンケート記入をする。(〇〇分)

講師、指導者、ボランティア
 〇〇公民館
 〇〇研修室
 〇〇公園等

チラシに掲載する各回のテーマを内容がわかるように、簡潔に書く。

プログラムの内容についての注意

- 必ず3回以上の連続講座を計画
- 学習・活動の成果が次の回の学習活動に活用できるように各会の流れを工夫する
 - : 活動の系統性・連続性を重視
 - : オムニバス形式はよくない
 - : 計画→練習・準備→発表など

10 学習成果の評価

学習成果の評価については3日目に詳しくしますので、ここではだいたいの方法を記すだけでよい

プログラム目標の達成度、学習者にとっての成果という2つの観点から、どのように情報を集めればよいのか考える

前者は、主催者が設定した目標を参加者がどのくらい達成したのかという視点、

後者は、当初設定した目標以外に、参加者自身が成長・変化した点は何かという視点

参考資料

平成22・23年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修初級研修資料
(広島修道大学教授 山川尚美, 広島経済大学准教授 志々田まなみ)

「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」
廣瀬隆人・澤田実・林義樹・小野美津子著

広島県立生涯学習センターホームページ「研修情報事業・学習プログラムの作り方」